

日本胃癌学会認定施設として認定されました！

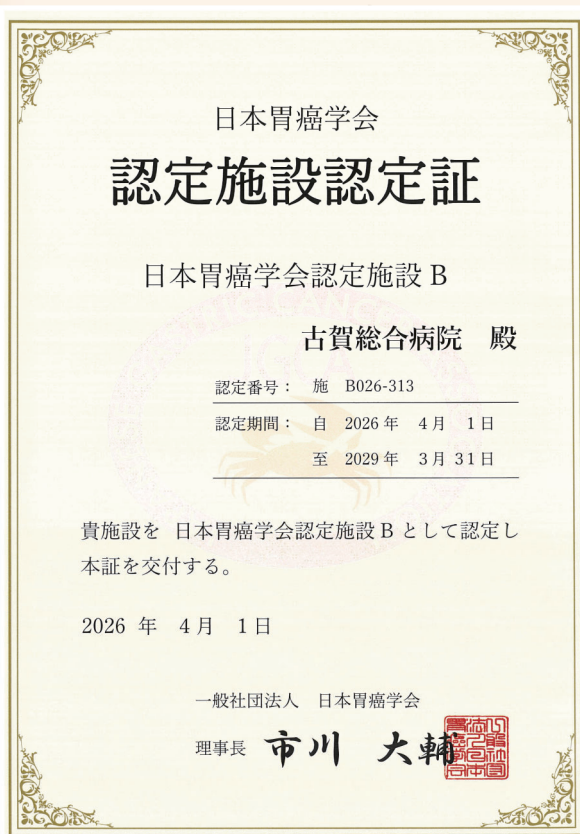
胃癌手術は日本胃癌学会認定施設とそれ以外の施設で行った場合とで、認定施設の方が死亡率が低く安全であると報告されています(原著論文はMatsunaga T, et al. Gastric Cancer. 2026 Jan 2.)。当院はこのたび、日本胃癌学会認定施設Bとして認定されました(図1)。

ピロリの除菌などにより日本の胃癌患者さんは減少傾向ですが、一方で胃癌治療は内視鏡治療や腹腔鏡・ロボット手術などの低侵襲化が進み、その技術的難易度は高くなっています。また化学療法は、遺伝子発現によって適した抗癌剤が異なり、その種類も年々増えており、高度な専門的知識が要求されています。したがって、今後の胃癌治療は専門施設での集約化が進むと言われています。

当院の胃癌治療に関しては(表1)、外科手術は年間35~40件で、その約90%を腹腔鏡手術で行っており、さらに2025年4月からはロボット胃切除術も導入しています。可能な限り患者さんに負担の少ない手術を目指しています。内視鏡切除(ESD:内視鏡的粘膜下層剥離術)は年間約35件、新規の化学療法は年間約15件行っています。

今後も内視鏡検査・画像診断・病理診断を組み合わせ正確な診断を行い、内視鏡切除・外科手術(腹腔鏡やロボット手術)・化学療法などの患者さん一人ひとりに最適な治療方針を提供してまいります。

胃癌患者さんがいらっしゃればいつでもご相談下さい。



	2022年	2023年	2024年
外科手術	48	39	36
うち腹腔鏡手術	20(41.7%)	35(89.7%)	32(88.9%)
内視鏡切除	38	32	38
新規化学療法	17	16	14

表1 過去3年間の胃癌治療実績(外科切除、内視鏡切除、化学療法)

図1 胃癌学会認定施設認定証